

<p>令和2年度「生徒努力目標」</p> <p>① 根気よく、主体的に学ぼう。</p> <p>② 自分も周囲の人も、大切にしよう。</p> <p>③ 自分と向き合い、進路を切り開こう。</p>	<p>が っ こ う</p> <h1>学校だより</h1>	<p>いばらきしりつひがうがゆうがっこう 茨木市立東中学校</p> <p>R3年 2月12日 №8</p> <p>ぶん せき こうちやう つぼた いずみ 文 貴 校長 坪田 泉</p>
--	-------------------------------	--

「冬来たりなば春遠からじ」 詩人パーシ・ビッシュ・シェリー(イギリス)

西風の賦「Ode to the West Wind」の再末尾にある
If Winter comes, can Spring be far behind? を翻訳した言葉です。
つらい時期を耐え抜けば幸せな時期が必ず来るというたとえでよく使われる言葉です。

緊急事態宣言が延長され学校生活も、感染症レベル3に応じた感染症予防対策を継続しています。
「春遠からじ」と希望を胸に入試に臨む3年生、不便な中でも頑張って平常心を保ち学校生活を
送っている1、2年生、部活の試合が中止になったり練習メニューが変わっても、毎日の練習にひた
すら励むみなさんに「本当によく頑張ってますね、これからも頑張ってください！」とエールを送ります。
そして、毎日子どもたちを見守り、支え、協力して下さっている保護者の皆さまに感謝いたします。
西風の賦の最終章を紹介いたします。もう春はすぐそこまで来ています。希望をもって冬を乗り越えましょう。

私を豎琴にして 森の如き音を発せしめよ
木々から葉が散ろうとも気にかけるな
音は力強いハーモニーをかなで

悲しくも完備で深い秋の調べを歌う
西風よ たけだけしい妖精よ
私に乗り移り 私を力強い勇者たらしめよ

枯葉のような私の思いを世界にばらまき
世界を生き生きと生き返らせよ
私の言葉に命を吹き込み

不滅の日から飛び散る火花のような
私の言葉を世界中にばら撒いてくれ
眠った大地に向けて
私が発する音になってくれ

西風よ 予言のラッパを吹き鳴らせ
冬が来たなら 春は間近いと



運動場に氷が張った日
凍てつく寒さの中で
一輪の芝罌が咲いていました

元気をもらいました



「3年生の感想より」

1組

できないと思ったことをしないという選択はとても容易なことだと思います。
しなということは失敗をしないということ。つまり失敗を恐れて逃げて
いるからです。自分はその選択をしたことが人生でたくさんありました。
しかし植松さんのスピーチを聞いて失敗はしてもいい、そこから助け
合えるから人は素晴らしいということを学びました。これからの人生
逃げるという容易な選択をする前に一度挑戦してみるということ
心がけていきたいです。

2組

もしかしたら、いままで一番大切なことを聞いたのかもしれないと思いました。
昔から聞かせていただいていた多くの講演会はこの結びつくのかなとも思いました。
可能性や自信を捨てず、新しいことにチャレンジすることで大切なことを学べるのかもしれないなとも思いました。
自分のしたいことや相手のしたいことを考えて、よりより未来になっていけばいいなと感じました。

3組

「どーせむり」ということを言わないようにしようと思うし、
やったことがない人がいうことで、
挑戦して失敗するより全然恥ずかしい、ダサいなと思った。
人の出会いは「自分の足りないところを助け合える」んだと思った。
これからはやったことのないことをやってみようと思いました。
植松さんの話を聞いて、中途半端でもいいから、何もしない、
何もできないより全然いいという言葉が響いてきました。
挑戦なくて成長はないと、話を聞いて思いました。

4組

「人は足りないから助け合っている」という言葉がすごく魅力的だと思った。全てをできるように
するんじゃないかと、それぞれができること持ち寄ってやれば結局それは成功になるから出合いは
大事だと思った。そしてすべてをあきらめるなどは言えない。あきらめざるを得ない状況もある。
その時は、一旦逃げてその時(なぜ)あきらめざるを得なくなった状態になってしまったか、なぜ
失敗をしたか考えてその原因から次の成功につなげればいいのかかなと思った。とりあえず今
思っていること、夢は実現するまで絶対あきらめずやりとげたいと思う。

5組

誰かに無理と言われても、自分が「したい!」「できる」と思うならやり、見返す気持ちで行動する。
そして、失敗しても恥ずかしくはないと思う。何か行動をして失敗するよりも、何も行動せず上手いかな
方が恥ずかしい、それで成功しても人に言うだけ言って、その人は大した行動もせず成功してるだけで
そこからは行動ができないと思う。失敗などをしてもいいからとにかく自分に自信をもって行動することが大事だと思った。

株式会社植松電機 代表取締役
株式会社カムイスペースワークス 代表取締役
NPO法人北海道宇宙科学創生センター(HASTIC)理事
全国各地で講演やモデルロケット教室を通じて
人の可能性を奪う言葉である「どうせ無理」をなくし、
夢をあきらめない事の大切さを伝える活動をしています。
植松さんのスピーチ動画を教材として、学習しました。

- ・1年生 国語科 スピーチの学習で動画を視聴
- ・3年生 道徳「希望」で動画を視聴

